人間らしく働くためのルールを
―青年の労働実態―

岡山県労働組合会議　弓田　盛樹

深刻な就職難

岡山労働局は 11 月 29 日、卒業を来春に控えた岡山県内の大学生の就職内定率 10 月末現在で41.9％だったと発表しました。調査を始めた１９９５年以降で最低だった前年同期の 41.3％より0.6ポイント上昇したものの、２０００年ごろの就職氷河期を下回る過去２番目の低水準です。岡山県労働局は「厳しい状況が続いており、引き続き就職相談や求人の開拓などに全力で取り組む」と発表しています。また、平成 25 年春に卒業する大学３年生の就職活動が 12 月１日より始まりました。就職活動は例年、１０月１日が解禁日でしたが、学業に支障をきたすなどの理由から経団連が加盟企業の採用指針になる「倫理憲章」を見直し、会社説明会などは「１２月１日以降」と改めました。しかし、大学の多くは３年生の後期試験が１月、レポート提出が１２月です。成績評価に関わる一番大事な時期に説明会に出なくてはならず、どこまで学業に配慮しているのか疑問視されています。

働くルールを学ぶ機会を

８月 28 日に開催された「青年集会 in 岡山」に参加した青年からは、「職場に人が足りなくて、とても忙しい」、「派遣社員は流動性が強いため、仕事を教えてもすぐに辞めていく。技術の継承ができない」との意見が寄せられました。現在どの職場でも人材削減による効率化が叫ばれ、新卒採用枠の削減、求められるのは即戦力。成果主義賃金が横行し、否応なしに競争させられる。これらが青年に忙しすぎる状況を与えていると思われます。また、全国青年大集会・岡山県実行委員会は青年を対象に仕事と生活の実態調査アンケートを実施しています。

アンケートに回答を寄せてくれる青年は、その多くが深刻な問題を抱えており、どこかに解決の糸口を求めています。しかし、仕事や生活で悩んでいる青年に労働組合への加盟を進めると、「そこまでするつもりはない」、「労働組合は共産主義だ」、「仕事以外で時間を取られたくない」など労働組合に対してかなりの偏見を持っています。働くルール（労働基準法、人権、憲法）については何も知らず、長時間労働・サービス残業をするのが当然だと考えている青年がほとんどの割合を占めています。しかし、学校では働くルールについて授業で取り上げることはありません。大学では就職活動中の学生に対して、労働基準法についての説明は何もありません。「面接で労働基準法について聞くと不利になる」とキャリア・アドバイザーから指導を受けるなど、意図的に働くルールを考えさせない事例もあります。自分たちにはどのような権利があるのか知らないまま就職していく青年が増加している要因はここにあるのではないでしょうか。すでに就労している青年にとっては、自身のスキルを磨くことに重点が置かれるため「働くルール」、「労働組合」について学習したいという思いは湧きません。高校・大学で働くルールをはじめとする権利学習をどう具体化していくのかが重要です。職場においては、従業員に就業規則・労働契約について説明することはもちろんのこと

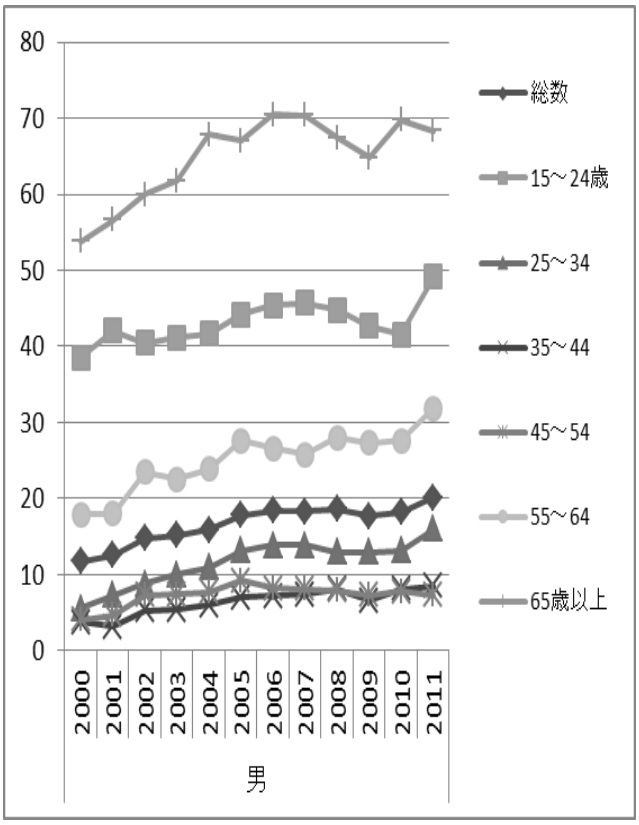
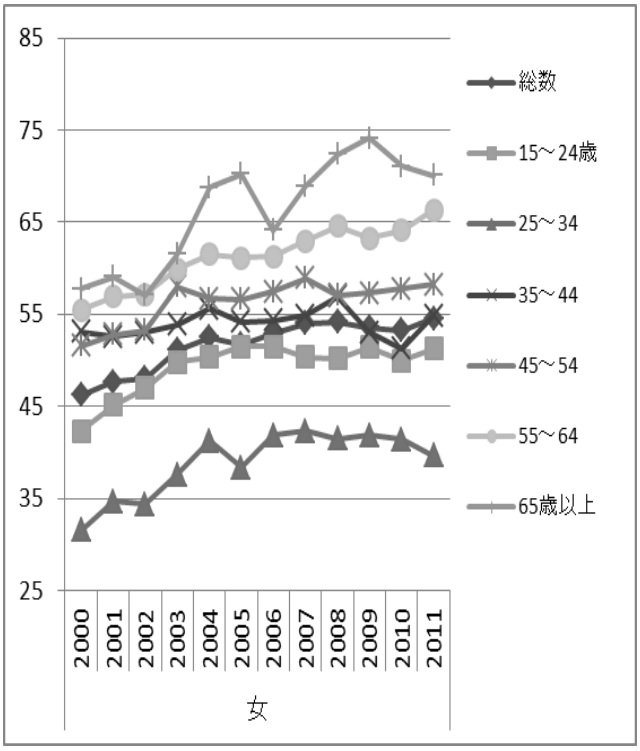
ですが、労働基準法などを学習する時間を意識的に取り入れる必要があります。

新卒採用に捕らわれない採用の実施を

近年は若者の非正規雇用とそれ故の低所得、不安定性が、格差を生み、少子化の大きな要因にもなっていることがしばしば指摘されます。労働力調査によると、男女とも 15～24 歳の若者の非正規比率が急激に高まっています。今回の震災を口実に真っ先に解雇されたのは非正規労働者でした。突然の雇い止めを行わない、不安定な働き方を改善するためのルールを整備するなど労働条件の改善を求めます。

近年大学新卒者の就職率が年々低下しています。また、現役の学生からは、「就職活動の開始時期が早すぎる」、「交通費が高い」、「地元で就職セミナーが開催されるのが遅い」などの声があります。就職活動の早期化により、学業に支障をきたすことは問題です。現在、就職活動の開始時期が２ヶ月延長され、学生が学業に専念できる体制が整備されつつあります。しかし、かえって競争の激化を煽り、青年のじっくり学びたいという思いは忘れ去られています。ここで根本的に問題となるのは新卒一括採用という制度ではないでしょうか。企業の新卒に偏った採用活動により、新卒として就職できなかった青年は大変不利な状況に置かれることになります。就職できなかった青年は、契約社員、派遣労働者として働くなど非常に不安定な立場に追い込まれています。年収 200 万円以下のワーキングプアが近年増加しているのにはこのような背景があります。

新卒採用に偏らない採用活動の実施と同時に、就職活動において発生する費用の援助を整備することが求められています。

以上が青年を対象にしたアンケート調査、聞き取り調査によって明らかになりました。いま青年は厳しい現実に直面しています。「9.11 原発ゼロをめざす県民集会」以降、青年活動に対する注目が高まっています。社会の流れが変わり始めた今こそ、青年が声を上げて、新しい社会を作ることに取り組むときです。

男女別非正規雇用者比率（労働経済白書より）